

2018—全国大会報告

2019年 1月 吉日

兵庫フットボールクラブ

代表 永浜 和紀

第42回全日本U-12サッカー選手権

全国大会結果報告

12月25日(火) 姫路 9時48分発 さくら 選手全員が揃い出発。
選手の後ろ姿を見ながら、「立派になった。成長した。」と思った。
ゆったり座っている子ども達の後ろ姿。車内の雰囲気にとけこんでいる姿には、
幼稚な子どもから大人に近づくサッカー選手のオーラがあった。

午後4時 開会式が始まった。 終わったのは午後6時。
開会式会場から出てバス乗り場までの5分。 ジュンタが座り込んでいた。
『大丈夫か?』と声をかけた。いつも通りの元気な声で、『大丈夫です。』
ホテルに到着し、ロビーでチェックインの手続き。11チームの選手が宿泊する。
その時、ジュンタが嘔吐。多くのチーム・選手の顔が引きつっている。
誰もが、「インフルエンザ。」と頭の中をよぎる。もちろん私自身も、そう思った。
選手に感染することを恐れた私は、私自身がそれを片付け処理した。片付けながら
「私に感染したら、チームはどうなる。」そんなことを考えながら・・・。
他のチームの選手に感染しないことだけを祈っていた。

12月26日(水) 予選リーグが始まる。選手の顔に元気がない。しかし、心配していたジュンタは、
熱も上がらず、思った以上に元気。「大丈夫、朝ご飯も食べる。」インフルエンザで
はないことを確認して一安心。そして試合会場へ。外は雨。

持ち物に関しては、鏡原コーチが部屋を回り何度も何度も注意
していたが、それでもバスに乗る前に忘れ物に気づき部屋に戻る選手も。

会場に到着し、アップ会場へ移動するとき、交換用ペナントの忘れ、ユニホームの
忘れに気づく。試合前、レガースがどこに行ったか分からず、てんやわんや。
緊張感からだろうか?試合に集中できないまま、笛が鳴る。

9時30分 第1試合 兵庫FC 2-4 FC. フェルボール愛知
開始6分 左サイドからのクロスをヘディングシュート。見事にゴールネットに
突き刺さった。
3分後、首藤のドリブル突破から得意のゴールが生まれる。そして、その5分後、」ま
たもや首藤のゴールで逆転。これでいつも通りの試合ができるかと思ったが、また
もや、クロスボールへの対応が悪く失点。DF ラインの選手が、相手FWをマーク
できない。立て続けにゴールを許し、逆転される。
後半、開始早々に左サイドからのクロスボールから失点。決定的なチャンスを何度も

作るが、ゴールネットを揺らすことはできなかった。

13時15分 第2試合 兵庫 FC 0-1 Jフィールド津山

前半10分、コーナーキックからヘディングシュートを許し失点。兵庫 FC の選手に
気迫が無く、ゴールを奪う雰囲気すらなかった。悲しいかな、これが実力かもしれ
ない。何を話しても、選手の耳には入っていかなかった。

12月27日(木) 朝から、財布がなくなった騒動で始まる。幼稚な6年生の本質が、ここに来て噴出。
試合よりも自分の財布の方が大事。「無くなるわけがないやろ。」と一括。
もちろん、後から出てきたが。
人間教育が十分でないことは百も承知していたが、こんな時に出る。
指導者として情けない。

9時30分 第3試合 兵庫 FC 0-1 アビスパ福岡

予選敗退が決まっているチーム、そして選手には、歯が立たないだろうと思ってい
たが、そうでもなかった。試合内容は、互角。しかし、勝利をもぎ取る力、気迫は
無い。終わってみれば、やっぱり敗戦。

すべては指導者の責任。 「敗軍の将、兵を語らず」

12月28日(金) ホテルを出発して帰路へ。

8時30分出発予定。しかし、集まったのは、8時40分。そして、各部屋のチェッ
クに。全室ともに、部屋の中は散乱状態。ごみだらけの部屋。ベッドはグチャグチャ。
ボールを忘れている選手も。結局、出発できたのは9時。

こうならないために、やってきたつもりだった。県大会までは、成長の跡を見せていた。県大会と
は違う雰囲気にもまれ、何もできなかった選手。それをコントロールできなかった指導者。応援してく
れた多くの方に申し訳ない。私自身、2年連続の不本意な結果に、自分自身の力のなさを痛感している。
現5年生以下には、しっかりとした指導で悔いの無い試合ができるようにしたい。